

Waseda Moodle や Zoom に加えて、 LINE や Google フォームなども活用。 学生が学びやすいオンライン環境を整える



石野 一晴
早稲田大学 非常勤講師

商学部で中国語を選択した学生が履修する「中国語Ⅰ基礎 A」。シラバスは学部共通だが、授業の内容は各クラスの担当教員に任されている。コロナ禍により 2020 年度の授業が完全オンライン化される中、石野一晴先生は Waseda Moodle や Zoom などオンライン授業でよく使われる ICT ツールを使いこなすだけでなく、LINE のオープンチャット機能や Google フォームなども活用。学生が着実に学べる環境を整えたことで、高い学習効果を上げている。

Waseda Moodle の小テスト機能や「利用制限」機能も利用してフルオンデマンドの授業を展開

2019 年度から、「中国語Ⅰ基礎 A」を担当している石野先生。初年度は従来型の対面授業だったが、実は他大学ですでに Moodle を使っていて、「Moodle は語学学習に向いている」と感じていたという。そこで、授業がオンライン化された 2020 年度は、Waseda Moodle の利用を核として授業を組み立てた。「授業は週に 2 回あり、基本は Moodle を使ったオンデマンド授業です。ただ、オンデマンドだけでは発音練習のフィードバックができないので、週 1 回 Zoom によるリアルタイム配信を導入しました」。

学生は、毎回 Waseda Moodle にアップされているスライドと、20 分程度の解説音声を見聞きしながら学習する。学んだ後は、Moodle の小テストで理解したかどうかを確認。「授業の内容を完全に理解して欲しいので、小テストは満点を義務付けて、満点になるまで繰り返し受けてもらいました」。また、教科書の練習問題はあえて手書きで解答してもらい、それを撮影して Moodle にアップロード。石野先生が確認して、フィードバックしたという。

「Moodle の利用制限機能で、小テストに合格しないと次のコンテンツにアクセスできないように設定して、学生の進捗状況を管理しました。学生には、授業配信日から 3 日以内に学習を終えるように指示しましたが、春学期に関してはほとんどの学生がこのサイクルで順調に学習できていたと思います」

また、Waseda Moodle での学習はフルオンデマンドなので、そのフォローとしてオンデマンド授業回にあたる月曜日には、時間を決めて Zoom のミーティングも開設。学生にはあらかじめ URL を教えて、質問などがあればいつでも来てほしいと伝えた。「質問に来るのは普段は 1～2 名ですが、月に 1 回行う発音の試験の前は「発音を聞いてほしい」と 5～6 人程度来ることもありました」。

Google フォーム+ LINE のオープンチャットで、匿名の質問に答えられる仕組みを導入

Zoom によるリアルタイム配信の授業では、主に中国語の発音練習を行った。「1 クラス 30 人弱を半分に分けて 30 分程度の練習を実施しています。ブレイクアウトルーム機能を使ってペアを作り、学生同士で練習する機会をなるべく多く作りました」。このとき、石野先生は各ルームを見回ることなどはしなかったという。

「学生同士が教え合う時間が大切だと感じているからです。もちろん、質問があればいつでも聞いてほしいと伝えました。また、仮に合間に多少おしゃべりをしていても構いません。Zoom の授業は、発音の練習であると同時に、学生同士がコミュニケーションを取る機会にしてほしいという思いがあるからです」

Waseda Moodle と Zoom 以外では、Google フォームと LINE のオー

ンチャットを使って学生からの質問を受け付けたり、石野先生の側からも情報を発信した。「オンデマンドの授業と発音練習だけでは、インタラクティブ性に欠けると考えました」。

当初は、LINE のアカウントを学生が全員持っているので、LINE のオープンチャットで質問を受け付けようと考えて、試しに使ってみたというが、「誰が質問したのかわかることがハードルのようで、特定の学生しか質問をしてくれませんでした」。そこで、Google フォームで匿名の問い合わせフォームを作成したところ、急激に質問が来るようになったそうだ。Google フォームから回答はできないため、質問の答えのほうは LINE のオープンチャットに書き込んだ。また、質問がないときにも、小テストで間違いが多かった問題の解説や、その他、学習の参考になる情報などを定期的に発信した。

ちなみに、授業を始めたばかりの頃は、授業の内容よりも Moodle の使い方に関わる質問が多かったという。「匿名で質問できる場所がなかったら、学生が一人で悩んでいたかもしれないと思うと、この仕組みは作ってよかったと思っています」。

単語統一試験での好成績で学習効果を実感。 対面授業に戻っても Moodle の利用を継続予定

定期テストでも、もちろん Waseda Moodle と Zoom を利用した。まず、筆記試験では、Moodle の「問題バンク」機能を使って、大量の問題を文法項目ごとに分類して登録。学生は、ランダムに出題される問題に解答した。「解答時間を短く設定することで、カンニングする時間が取れないように対策しました」。

一方、朗読試験と口頭試験では、Zoom を使用。「3 回行う朗読試験は、初回のみ録音した音声を提出してもらい、その後の 2 回は Zoom で私と 1 対 1 で行いました。他の学生には、ブレイクアウトルームでグループワークをしながら待機してもらいました。口頭試験では約 50 の例文を用意し、学生は事前にそれを暗記。試験当日は、Zoom 上で私がランダムに選んだ例文の日本語訳を、中国語で答えてもらいました」。

石野先生が担当する 2 クラスは、秋に行われた商学部全体の中国語の単語統一試験で、いずれも上位の成績を修めた。このことから、ICT ツールを使いこなした石野先生の授業は学習効果が高かったことがわかる。また、今回 e ティーチングアワードに石野先生を推薦した小川利康教授も、学生に馴染みのある LINE などを活用した石野先生の創意工夫のある授業を評価する。

2021 年度以降、対面授業に戻っても、単語やリスニングの学習については、引き続き Waseda Moodle を使っていく予定だという石野先生。「Moodle を使えば、忘却曲線に基づいて、時間を置いて繰り返し復習するようなメニューも組みやすいのではないのでしょうか。ただ、2020 年度はコロナ禍の緊張感のある状況がよい方向に影響した可能性もあります。学生の様子を見ながら、どのような授業が望ましいのか、今後も検討していきたいと考えています」。